

[参考資料 C]

K シリーズ (GP6000 シリーズ) との連携でよく寄せられる質問

DBEAM を使用して K シリーズ (GP6000 シリーズ) へ接続する際の一般的な質問について回答します。

- スキーマ一覧が表示されない
システム情報表が作成/設定されていてもスキーマ一覧が表示されない原因は、ログインしたユーザ ID の機密保護グループ名とスキーマの所有者が異なっているため。
スキーマの所有者を DSPLBAUT コマンドで確認し、その所有者のユーザ ID を使用するか、CHGLBOWN コマンドでスキーマの所有者を変更する。変更した場合は、システム情報表を再設定する。また、テーブルの無いスキーマは表示されません。
- JEF 拡張漢字 (株) など) が表示できない
JEF 拡張漢字サポートを使用し、コード変換の場所をクライアント側にして対処してください。
標準テンプレート、外字テンプレートを設定すれば表示できます。
JEF 拡張漢字サポートの使用方法は、“3.8 JEF 拡張漢字の使用方法”を参照してください。
- 表が占有排他され、他から使用できない
STRRDAT コマンドの EXCLMODE パラメタを@RECORD2 にしてください。ODBC 連携の場合は、クライアント側からでも排他モードを指定できますので、アプリケーションの仕様を確認し、クライアント側で指定することを検討してください。@RECORD2 の場合、他から変更、追加できるので、データの整合性に注意する。
- 繰り返し項目のデータが正しく表示されない
CHGPF コマンドの SFLT パラメタに@YES を指定して、SQL で扱えるレコード構成に変更してください。
CRTPF 直後の状態では、繰り返し項目全体を文字列として扱われるため、正しく文字コード変換できない。
CHGPF 後は、システム情報表を再設定する。
- アクセス中に以下のようなエラーが発生する
sqlstate : 08S01 , -54 または-58
(原因)
サーバから切断された。
(処置)
サーバに異常が発生またはサーバが終了した可能性があります。
サーバの状態を確認する。
- 列一覧にファイル定義体の項目見出しが表示されない
ファイル定義体に設定した項目見出しが表示されずに、項目名が表示される場合があります。
これは、CRTPF コマンドの NCNAME パラメタに@YES を指定してないためです。
【注意事項】
ここでは、サーバ及びゲートウェイでの注意事項について説明する。

● 監視時間

データベースアクセス中にパソコンの電源切断又はリセットなどを行った場合、通信が中断されてサーバジョブが残存し、サーバ側の表が占有したまま解放されなくなることがある。そのため、サーバ側及びゲートウェイ側では、業務に合わせた監視時間を設定しておく必要がある。監視時間を設定すると、以下の処理が行われる。

・ 離席監視

設定した時間内にデータベースアクセス要求が来ないパソコンとの接続をサーバ及びゲートウェイ側で強制的に切断し、接続及び表を解放する。

離席監視時間を設定するには、STRRDAT コマンドに TIMEOUT-離席監視時間（分単位）を指定する。

・ 死活監視

設定した時間で TCP/IP の Keep Alive 機能を行い、電源断又はリセットにより応答しなくなったパソコンとの接続をサーバ及びゲートウェイ側で強制的に切断し、接続及び表を解放する。

死活監視時間を設定するには、STRRDAT コマンドに KEEPA-死活監視時間（秒単位）を指定する。

以下に、監視時間を指定しなかった場合に発生する現象と、それぞれの原因及び処置を説明する。

● 表が排他獲得されたままとなる

(現象)

一度アクセスした表を再度アクセスすると、タイムアウトが発生する。一度アクセスした表を再度アクセスすると、タイムアウトが発生する。

(原因)

表をアクセス中にパソコンの電源を切断すると、パソコンからデータベースアクセス終了要求がこないため、表をクローズできなくなり、サーバで排他獲得されたままとなる。

(処置)

排他獲得している RDA-SV/TCP のサーバジョブを REFSYS コマンドなどで調べ、排他獲得しているサーバジョブを CANJOB して、表を解放する。また、CANJOB せずにサーバ側のシステムを停止（電源断、IPL など）すると、表が閉塞されてアクセスできなくなる。この場合は、RCOVRDM コマンドで閉塞状態を解除する。

サーバジョブが分からない場合は、STPRDAT コマンドで ORDERLY-@NO（強制終了）を指定して、RDA-SV/TCP を強制終了する。

● RDA-SV/TCPが停止できない

(現象)

STRRDAT コマンドで RDA-SV/TCP を停止させても、終了しない。

(原因)

接続が接続された状態でパソコンの電源を切断すると、パソコン側から接続切断要求がこないため、接続が切断できず、接続されたままの状態となる。

STPRDAT コマンドで ORDERLY-@YES（非強制終了）を指定しても、接続した状態の接続があると、終了できない。

(処置)

STPRDAT コマンドで ORDERLY=@NO (強制終了) を指定して、RDA-SV/TCP を強制終了する。

- RDA-SV/TCP が再起動できない

(現象)

STPRDAT コマンドで強制終了した後に、STRRDAT コマンドで再起動すると、異常終了する。

(原因)

サーバ及びゲートウェイ側から接続を切断しても、接続残存時間 (3-10 分間) を経過しなければ、RDA-SV/TCP を再起動しても異常終了する。

(処置)

STPRDAT コマンドで強制終了した後は、3-10 分間の間隔をおいてから STRRDAT コマンドで再起動する。

なお、残存接続は、STPNSS コマンド又は CTLNSS コマンドで回収できる。

- 機密保護

データベースアクセス時の機密保護は、クライアントで指定したユーザ ID によってチェックされる。機密保護は、DBMS の機能によって異なる。

DBMS における機密保護機能の詳細は、各サーバ製品の以下のマニュアルを参照されたい。

- ・「ASP RDB/6000」
- ・「ASP SQL 説明書」及び「ASP RDB 説明書」
- ・「OSIV SymfoWARE」
- ・「OSIV RDB ユーザーズガイド」

- 繰返し項目を持つファイルの扱い

繰返しを持つ項目は、その繰返し項目全体が文字列として扱われるため、RDA-SV/TCP では扱えない。扱うには、CHGPF コマンドにより SQL で扱えるレコード構成に変更する。

CHGPF コマンド及びそのファイルの扱いについては、“ASP RDB 説明書”、“ASP SQL 説明書”及び“ASP システムコマンド集”を参照されたい。

- 文字列データの扱い

データベース (表) の文字列型 (CHAR 型) の列に対して、半角文字と全角文字の混在文字列を指定した場合、文字コード変換によって、文字列切替え記号の“K シフト”と“A シフト”が全角文字列の両端に挿入される。このとき、文字列が長くなり、格納文字列に格納できないと、“けたあふれ”でエラーとなるので注意されたい。

- 文字列型の扱い

文字列型 (英数字項目および日本語項目) のデータには、文字コードデータが格納されてなければならない。文字列型のデータに対しては、常に文字コード変換を行うため、文字コード以外のデータが格納されている場合は、文字コード変換エラー又は意図しないコードが通知されることがある。

- 浮動小数データ

XSP、MSP の SymfoWARE アクセスにおいて、浮動小数データの形式が XSP、MSP 側とパソコン側で異なるため、浮動小数項目に指定した検索条件が合致しない場合がある。

- システム情報表

システムコマンド (CRTLIB, CHGLBAUT, CRTPF, CHGPF, CHGOWN など) でデータソース (スキーマ、表など) の作成、変更または削除をした場合は、CTLSYST コマンドでシステム情報表の再設定が必要である。

● 表一覧

表一覧では、以下の表が通知され、論理ファイルを含む他のファイルは通知されない。

- ・実表 (物理ファイル)
- ・活性化されているビュー表

● スキーマ一覧

スキーマ一覧では、以下のように通知される。

- ・システム情報表に登録されているスキーマ (ライブラリ名) が通知される。
- ・ログインしたユーザ ID の所有権を持つスキーマのみが通知される。
- ・テーブルがあるスキーマのみが通知される。

以上